



野木町長
真瀬宏子

ひろ コラム

No.134

子どもは町の宝

この4月より「こども家庭庁」が設置されました。省庁間の壁を取り除き、連携、協力することで、「子どもを中心とした子育て支援」が行われることと期待しています。今後は環境改善のために、各省に勧告することができるということですので、今まで以上に子ども達の健全な成長が促進されることと思います。本当に子どもの側に立った子育て支援の実現となればと思っています。

子どもはもともと一人の人間として存在し、私たちはしっかりと子どもと真正面から向き合っていかなければなりません。ともすれば自分の分身、所有物のようにも考えやすいですが、子どもの意志や感情も尊重しながら一人の独立

した「個」の人間として認めることが大切だと思っています。

町では「子どもは町の宝」として色々な子育て支援策を打ち出してまいりました。

出産祝い、七歳合同祝い、小中学校入学祝、18歳まで医療費無料化、学童や保育所の待機児童ゼロ、全校に学校図書館司書やALTを配置、また乳幼児や入学時の子ども達に本のプレゼント等、子育て支援や教育には特に手厚くしております。町の将来を担っていただく子ども達には出来る限りの施策を考え実行に移していきたいと思います。丁度今月5月5日はこどもの日です。それぞれの子どもを中心に据え、子ども達の将来が明るく希望が持てる世の中となるように私たちは努力していきたいと思っています。

子ども達の澄んだ目に陰りが起きないように、それぞれの夢に向かって進んでいけるように！と願っています。



健康タウンのぎ を目指して 85

問健康福祉課 ㊟(57)4171

＼ 毎年5月31日は世界禁煙デー・5月31日～6月6日は禁煙週間 ／

タバコと健康

望まない受動喫煙を防止する取り組みはマナーからルールへと変わっています。この機会に、禁煙にチャレンジしませんか？薬局等で買える禁煙補助薬を利用したり、病院の禁煙外来で専門家のサポートをうけることもできます。

喫煙者本人へ及ぼす影響

喫煙はがんをはじめ、脳卒中や虚血性心疾患などの循環器疾患、慢性閉塞性肺疾患(COPD)や結核などの呼吸器疾患、2型糖尿病、歯周病など、多くの病気と関係しており、予防できる最大の死亡原因であることがわかっています。また、喫煙を始める年齢が若いほど、がんや循環器疾患のリスクを高めるだけでなく、総死亡率が高くなることもわかっています。

周囲の人へ及ぼす影響

喫煙者が吸っている煙だけではなく、タバコから立ち昇る煙や喫煙者が吐き出す煙にも多くの有害物質が含まれています。本人は喫煙しなくても身の回りのタバコの煙を吸わされてしまうことを受動喫煙と言います。

受動喫煙による肺がんのリスクは1.28倍、虚血性心疾患のリスクは1.3倍、脳卒中のリスクは1.24倍とされています。さらに受動喫煙は子どもの呼吸器疾患や中耳炎、乳幼児突然死症候群を引き起こすことが指摘されています。また、妊婦の方やその周囲の人の喫煙によって低体重児や早産のリスクが上昇します。

禁煙の期間	効果
数日後	味覚と嗅覚が改善する
1年後	肺機能の改善がみられる
2～4年後	虚血性心疾患のリスク、脳梗塞のリスクが低下する
5～9年後	肺がんのリスクが低下する
10～15年後	様々な病気にかかるリスクが非喫煙者のレベルまで近づく